創刊10周年
記念特集号
＝8ページ＝

關西大學新報

発行所
大阪市大淀区長柄中通
関西大学天六学舎内
関西大学新報社
電話 堀川㊥2072番
発行人 中山 巌
(定価一部十円)

朝倉文夫作の「友」
千里山第一学舎前で

論説

新聞の自由と責任

新聞の自由と責任とは車の両輪のようなものである。一全員購読制によって新聞の自由が侵されることなく、一編集権の独立を守り抜くことが全学生に対する新報社の責任である。

昭和二十三年十二月十日"働きつつ学ぶ者の新聞"わが関西大学新報が、創刊間非難の手によって素朴な産声を上げてから早くも十周年を迎えた。単に十周年という歴史は、わが国の大学新聞においては浅い方で、決して自慢するに値らない方、夜間部学生として時間的、肉体的な無条件と戦いながら、全国唯一の定期刊行を行なうこと十周年を迎えたということは、いささかの誇りとするところである。この機会にわれわれは諸君とともに、新聞製作の基本的態度について考えるとともに、自らに対するいましめともしたいと思う。

(I)

すでに言論の自由が、民主主義の発展に必要欠くべからざるものであることは万人の認めるところであるが、言論の自由は新聞の自由をもって具体化されるといっても、決して過言ではあるまい。このことは、とりもなおさず新聞の持つ力がいかに大きいかを物語っている。新聞の力が大きければ大きいだけ、外部からの圧力もかかり易いのである。自由のない新聞がどうなることになるか、この発展には戦争を通じてわれわれの記憶にまだ生々しいはずである。新聞の自由を維持するためには最小限、つぎの四点が確保されねばならない。

①記事の掲載、領収について不当な法的制限のないこと②権力者による不法、不当な圧力のないこと③ニュース・ソースへ自由に接近し、取材しうること④取材した記事の送付、伝達に対し何等の制限を加えないこと。

それでは新聞はこのような場合にいつも報道の自由を主張しうるだろうか。一国の秘密や個人の人権を侵害すれば罪せられるように、新聞もそれに対して公開せざる通信の権利はない。また新聞の自由には、自らキャッチしたニュースに対しての制限を受けることなく、報道することのできる権利がある。学生新聞においては自由の範囲はさらに広まっている。一般紙が平気で載せるようなことも、諸君の不名誉になるものは載せられないからだ。しかし、不名誉になるが、二度とそのような不名誉を起こさないためには、不名誉をもあえて報道することもあるべき。それは報道することによって失う名誉と、報道しないことによって再び起こされるであろうところの不名誉との価値判断の大小によって決まる。第一次世界大戦のとき、イギリスは無準備のため敗北を重ねた。このとき、ロンドンの一新聞がイギリスの欠陥を指摘し、如何に無防備であるかを報じた。考えようによっては極端すぎるようだが、政府はこの報道を勇気ある忠告として受け取ったのである。

(II)

新聞の自由が権利として確保されるなら、新聞はこの報道に対して当然責任を負う義務が発生する。責任のない自由は、自由ではない。自由から自由を傷つける恐れがある。外部から自由を傷つけるのは自由の侵害であるが、内部から自由を傷つけるのは自由の自殺である。新聞が意識的に偽装を行い、他人に迷惑をかけるのは論外の沙汰だが万一過誤により人の名誉、信用を傷つけた場合でも、責任者に刑法の適用規定が適用されるのは止むをえない措置であろう。新聞の影響力が強烈であるだけに、反社会的な作用に対しては厳正に責任を追及する必要があるのだ。公器としての新聞に読者の信頼が与えられなくなれば、新聞の持つ指導性も発揮されなくなる。新聞と読者とは相互関係に置かれているもので、新聞は読者の意向に無関心であり、また読者の信頼を失い、読者から遊離した新聞は一片の反古紙同然である。

(III)

関西大学新報は昭和二十年十二月の学生大会で全員購読制が可決され、政治的裏づけが確立された次、同時に文字通り"全学生の新報"として公器としての責任は一層重くなった。今回本紙が行った学内世論調査では、幸い全員購読制に多数の支持が与えられ、無関心者の意向は一層少くなっている。しかしながらこれは一応の成功であるが、何よりのわれわれの心掛けとしてはいまだ不充分である。

しかし、全員購読制になってから、われわれが最も心配していた編集権侵害への動きが目立つようになってきた。いまだ目立つほどもなく、新報社はいずれの団体の機関紙でもない。したがって新報の報道と論議に関しては新報社の自由である。批判は素直に受けるが、何人にも干渉されるべき筋合いのものではない。まして全員購読制と新聞の自由とは、本質的に全然無関係である。いまや全員購読制の新報は、全学生のための新報であって、一部の学生のための新報ではない。われわれは、このような一部の動きに対して、あくまで民主主義の敵から新聞の自由を守り、その本質を変えねばならない。それは全学生に対する新報社の責任である。

良き新聞とは、言論の自由と新聞道徳と学理解、指導精神を使命とし、かつ実践する功績ある新聞である。

関西大学新報創刊10周年に寄せる

新聞の魔術から大学を守れ

小野秀雄

関西大学新報が創刊十周年を迎えたので、大学新聞のありかたについて執筆を乞われた。新聞は自由を生命としているが一定の枠がある。それは必ずしも大学新聞に限らない、一般新聞についても同様である。但し一般新聞の場合にはその枠の基準が狭くても国家であるが、大学新聞の場合は学園の範囲を出ない。そこに多少の窮屈さがあるが、そこで学校新聞の発達しているアメリカでは、それぞれの学園で学校新聞のスタイル・ブックを作って、代々の学生記者がそれを基準として新聞を作ることになっている。

日本の大学や高等学校にも、それに似たものを作っているところはあるが、今では一応不文律的な伝統ができたようであるから、新たに作る必要はなくなった。関西大学新報にそうしたスタイル・ブックがあるかないかはしらないが無事に十周年を迎えたという事実からみて、今更大学新聞のありかたを述べたてるのはどうかと思われる。そこで、最近私が最も痛切に感じている大学新聞の新たな使命を述べて、学生記者諸君の一考を欲したいと思う。

結論からさきにいうと、大学新聞の記者諸君は、常に一般新聞の社説や報道を分析研究して新聞の魔術から学生諸君を守ってもらいたいということである。日本の新聞読者は、日本の商業新聞は中立性を守ることを自らの使命としていることを知っているであろうと思う。その意味は一方に偏せず常に公平な見地から論判し、公平な見地から記事を取扱うものと判断しているにちがいない。実際読者の新聞に対する信頼感は、そこに根ざしているのである。

そもそもこの理念は、元来新聞が政党の支持を受けて、党利のために公共の利益を無視したり新聞を売らんがために読者に媚びるような新聞を作ることを非難した。新聞「日本」の廃刊論が強調したのに源を発しているが、民主主義の発達段階において、新聞の自主独立をその使命として強調したものである。大阪の新聞は一方に偏することは営業上不利益であるといってよい。それは報道することによって失う名誉と、報道しないことによって再び起こされるであろうところの不名誉との価値判断の大小によって決まる。第一次世界大戦のとき、イギリスは無準備のため敗北を重ねた。このとき、ロンドンの一新聞がイギリスの欠陥を指摘し、如何に無防備であるかを報じた。考えようによっては極端すぎるようだが、政府はこの報道を勇気ある忠告として受け取ったのである。

新聞の自由が権利として確保されるなら、新聞はこの報道に対して当然責任を負う義務が発生する。責任のない自由は、自由ではない。自由から自由を傷つける恐れがある。外部から自由を傷つけるのは自由の侵害であるが、内部から自由を傷つけるのは自由の自殺である。新聞が意識的に偽装を行い、他人に迷惑をかけるのは論外の沙汰だが万一過誤により人の名誉、信用を傷つけた場合でも、責任者に刑法の適用規定が適用されるのは止むをえない措置であろう。新聞の影響力が強烈であるだけに、反社会的な作用に対しては厳正に責任を追及する必要があるのだ。公器としての新聞に読者の信頼が与えられなくなれば、新聞の持つ指導性も発揮されなくなる。新聞と読者とは相互関係に置かれているもので、新聞は読者の意向に無関心であり、また読者の信頼を失い、読者から遊離した新聞は一片の反古紙同然である。

関西大学新報は昭和二十年十二月の学生大会で全員購読制が可決され、政治的裏づけが確立された次、同時に文字通り"全学生の新報"として公器としての責任は一層重くなった。今回本紙が行った学内世論調査では、幸い全員購読制に多数の支持が与えられ、無関心者の意向は一層少くなっている。しかしながらこれは一応の成功であるが、何よりのわれわれの心掛けとしてはいまだ不充分である。

指導的な意見を打出すべしという意見には或程度傾いて来た。しかし徹底したとはいい得ない。たとえば新聞がトップに扱った問題は大低論説委員会の問題になる筈であるが、それが不同に附される場合がある。読者としては新聞の意見を知りたくてまっているのにそれが素通りされるのはどうしたわけか。「イエス」といっても「ノー」といっても、あちこちにさわるというので素知らぬ顔をするのではあるまいか。論説委員会としては一同の意見が分らず、結局寄けなかったということになるらしいが、その原因は委員個人の意見よりも、世間への気がねにあるのではないか。そうした場合双方の意見を公平にとりあげるとドッチツカズの意見ということにもなりそうである。

これでは社説の権威はないことになる。納得のゆく断固たる意見を打ち出す、それが民主主義への正しい道ではあるまいか。

論説にも増して大切なのは報道の中立性である。勿論文字通りの客観性があり得ないことはいうまでもないが、最初から問題の方向を記者の主観できめてかかったのでは、報道でなくて意見というの他はない。先達てアメリカの雑誌「タイム」は、日本の新聞は政府のことといえば、反対することにきめている、と書いて世間の注目をひいた。これは決して社説だけの態度でなく、報道の書き方や取り扱方にもあらわれている。近い例をとっていえば警職法の報道がそうであった。最初から反対ときめてかかったから、この法律を問題にした政府側の立場は全然無視され、法律内容にたいする反対だけが強い印象を読者に与えた。立法の動機や原因かこの提案の発表と同時に新聞に載せられた重大使命ではあるまいか。（原文のまま）

終戦後民主主義の育成に、新聞は重大な使命をもっているというので、新聞に対する批判の声が高くなった。社説に対しては世論を反映すべきだといったり、指導的な意見を打ち出すべきだといった。またドッチツカズの社説は廃すべきだとの非難も出た。或新聞の論説委員長は、こうした注文は大低果たしているといったが、果してそのとおりであろうか。世論を反映するといっても「大きな声」ばかり取り上げて、小さいながら合理的な声があることを無視してはいないだろうか。また組織団体に属さないために、暗流となっている世論もある筈である。民主主義の発達段階においては、兎角こうした組織されない意見が力を立場から自主独立を必要である。

関西大学新報は昭和二十年十二月の学生大会で全員購読制が可決され、政治的裏づけが確立された次、同時に文字通り"全学生の新報"として公器としての責任は一層重くなった。今回本紙が行った学内世論調査では、幸い全員購読制に多数の支持が与えられ、無関心者の意向は一層少くなっている。しかしながらこれは一応の成功であるが、何よりのわれわれの心掛けとしてはいまだ不充分である。

しかし、全員購読制になってから、われわれが最も心配していた編集権侵害への動きが目立つようになってきた。いまだ目立つほどもなく、新報社はいずれの団体の機関紙でもない。したがって新報の報道と論議に関しては新報社の自由である。批判は素直に受けるが、何人にも干渉されるべき筋合いのものではない。まして全員購読制と新聞の自由とは、本質的に全然無関係である。いまや全員購読制の新報は、全学生のための新報であって、一部の学生のための新報ではない。われわれは、このような一部の動きに対して、あくまで民主主義の敵から新聞の自由を守り、その本質を変えねばならない。それは全学生に対する新報社の責任である。

良き新聞とは、言論の自由と新聞道徳と学理解、指導精神を使命とし、かつ実践する功績ある新聞である。

暮しの うるおい…

OTV
JOBX−TV

OTVをあなたの
家族のひとりに！

Channel 6

朝日放送と合併予定の
大阪テレビ放送

最高の理論水準を誇る週刊経済誌

エコノミスト

経済学専攻の
学徒に的確なる
経済知識を提供

創刊以来36年、つねに経済の理論面と現象面の結びつきを狙って編集されるエコノミストは、財政・金融・諸産業、および社会問題の当面する課題を分析し厳正なる批判を加えた国民経済誌です。また内外の新しい諸学説、諸論文の紹介は、経済学徒にとって必読の経済誌といえましょう。

毎週水曜日発売定価 70円

毎日新聞社

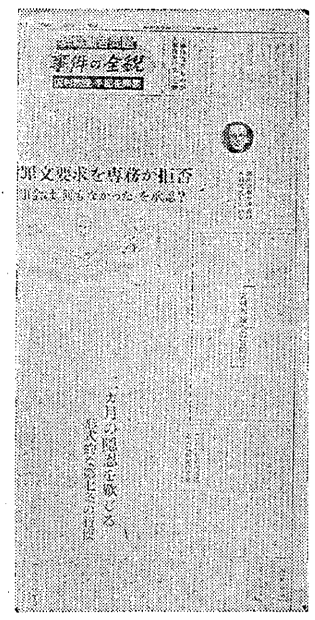
規約改正草案 全学投票で可決

十七日に学生大会で承認

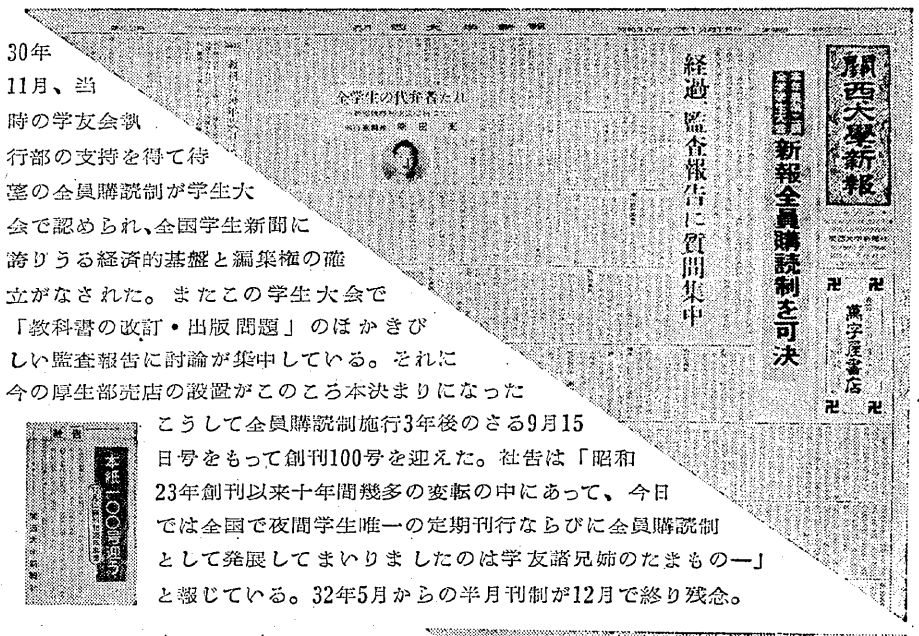
十二月十一日から三日間行われた規約改正の全学投票は、十三日午後八時三十分に締切られた。開票の結果、総投票数二、二九九票、有効投票数二、二七二票、賛成一、五九〇票、反対六八一票、無効二票で規約改正は承認された。十六日午後六時四十分から、学友会議案において中央選挙管理委員会は定員十二名中、四名が休学その他で委員の資格がなく、残り八名のうち出席者五名委任状四名で成立同会議は全学投票の確認と補欠論議が起っている事態を踏まえ、私が「フラ・フープ」に関して二週間ばかり続けたところである。ポツポツ豚骨の話が新聞にも残りだしていたが、まだ大流行といってよかった。たまたま学生さんなどの販売をしている友人に会った。「私の店などいまだに思っている。しかしこの流行はあと二週間ですよ」ということである。二週間とはたいへんな事態である。友人の話は偽りでなかった。それから二週間経って注意して狭い通りを観察っている姿をみると危なくてこちらがハラハラする。

スクラップにみる本紙活躍の足跡

千里山に二部各学部、編集室があった25年6月、対日講和、米ソ冷戦などの情勢に対し時事通信社、ラジオプレス社と学生新聞初の特約をし外信係をもうけた。そして〝世界は動く〟とのBBC、H・ホプキンス記者のニュースをのせ「冷戦、除々に解消へ」と見出しをつけた。



経済学部沢村教授の辞職勧告問題は学内民主化に暗いカゲを落したといわれるが、その事件の究明のため三カ月にわたって紙面を動員し、真相の報道につとめた。写真は第二面全面をつぶして本社が出した質問状に対する沢村教授の手記をのせ、プレス・キャンペーンを取った。

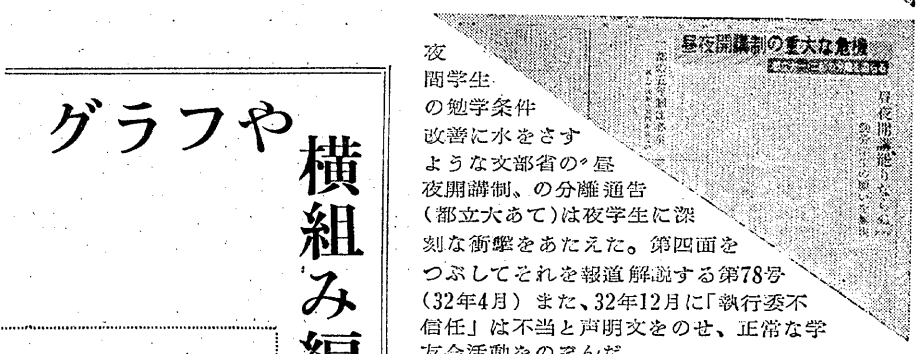


30年11月、当時の学友会執行部の支持を得て待望の全員購読制が学生大会で認められ、全国学生新聞に誇りうる経済的基盤と編集権の確立がなされた。またこの学生大会で「教科書の改訂・出版問題」のほかきびしい監査報告に討論が集中している。それに今の厚生部売店の設置がこのころ本決まりになった

こうして全員購読制施行3年後のさる9月15日号をもって創刊100号を迎えた。社告は「昭和23年創刊以来十年間幾多の変転の中にあって、今日では全国で夜間学生唯一の定期刊行ならびに全員購読制として発展してまいりましたのは学友諸兄姉のたまものー」と報じている。32年5月からの半月刊制が12月で終り残念。

通信社と特約し学生新聞の先端切る

さきの特約通信に先見の明あってか、25年7月朝鮮動乱が起るとさっそく生々しい特約電をのせた。面白いのはそのときの毎日新聞社の広告（写真参照）で、ニュースはぜひ〝毎日〟でというCMである。」



グラフや横組み編集で異彩放つ

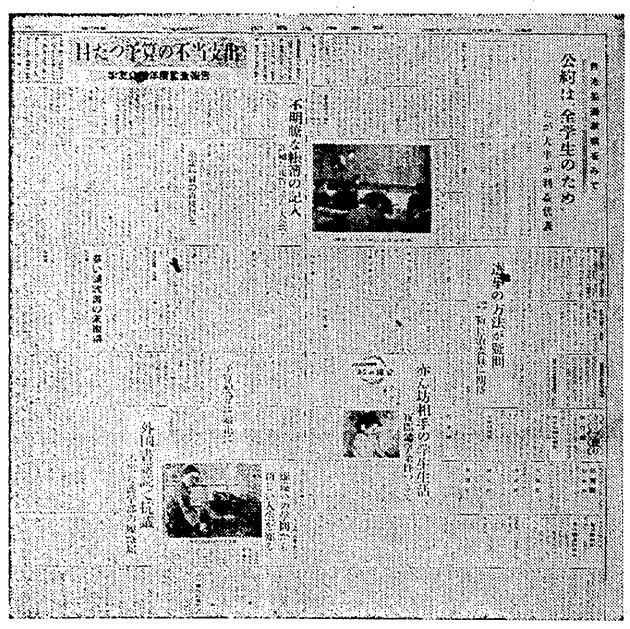
夜間学生の勉学条件改善に水をさすような文部省の〝昼夜開講制〟の分離通告（都立大あて）は夜学生に深刻な衝撃をあたえた。第四面をつぶしてそれを報道解説する第78号（32年4月）また、32年12月に「執行委不信任」は不当と声明文をのせ、正常な学友会活動をのぞんだ。

夜学連は発展的解消し全学連と統一することになった本紙はこのころ学内ニュースを充実させ、規約改正案の立案も三面で報じている。

（31年9月）

今の千里山学舎外苑の買取りをスクープした号外。まさか弾丸道路が横断するようになるとは。今なら関大放送新報社特信部が必要だ

昭和30年11月、関西大学は創立70周年を迎えた。新報社も、この70年の歴史を祝う祭典の一環として本紙とは別に「グラフ関西大学」を刊行した。70年の歩みを写真でたどったこのグラフは、意外に好評で、またたくまに売れつくした。なおこのカバー・ガールはこれが機縁で本紙婦人記者第一号となった福原志津子さん（当時法二）である。



二部学生の生活を守り育てることに毎号努力してきたが、特にルポ〝私の場合〟の生活記録や、低調な自治委や、その選挙のもようを報道、また学友会予算の正しい使途を図るため監査委報告を大きく掲載してきた。」

24年10月、大学院体育館（千里山）の落成を記念した大学祭で関西大学新聞関大一高新聞と本紙の三学内新聞が共同編集した新聞を出した。第二面にはレッドパージの嵐をうける学界、教育界、各大学の危機を報じている。」

よみやすい新聞をと、編集表現の面でもいろいろ研究して来たが、31年9月の就職特集面から特集、学芸面の横組みを実施しはじめた。好評だったが活字・組版の方で困難なので今のところ中止している。」

祝 創刊10週年記念
The Japan Times
¥360 per month
The Student Times
¥100 per month
ジャパン タイムズ
大阪支社 大阪市北区中之島淀屋橋ビル (26) 3591～2
本社 東京都千代田区内幸町一ノ一 (59) 5311～9
お申込みは朝日新聞販売部またはジャパン タイムズ本支社へ

団体係採用
◎勤めるなら先輩多数栄進の大会社へ
◎職種は大阪市内及びその周辺の会社・工場との連絡
◎昭和三十三年三月以前卒業者も可
◎希望者は来談又は歴送
日本生命阪神支社
大阪市東区伏見町五丁目
エビスビル三階

日本で唯一の夕刊英字新聞
ASAHI EVENING NEWS
Per Month
朝日新聞社

堅実の親切な
大東京火災海上保険会社
大阪支店 大阪東区今橋東詰
電話 (94) 代表 二三一一四番 二三五五一七番

創刊号の第一面

活字は新聞に使う扁平活字ではなく、印刷屋の用いる真四角な大号活字である。題字も単に活字を花ケイで巻いただけの味気ないもの。ニュースらしいニュースもなく、わずかに「学友会予算決定」と「学窓座の演劇賞第一位」ぐらいなもので、全面を通じて写真、トッパンは一つも入っていない。現在の論説は「主張」学声春秋は「ぼんのう」となっている。

本社の10周年略史

創設者は白井幸雄

堺刑務所で印刷する

白井初代主筆

昭和二十三年といえばようやく戦後の廃墟状態から脱却し、学生運動もまた全国に拡がりつつあった。各大学とも学友会、自治会などの再編、結成が行われ、関大二部でも六月から学生大会、自治会結成と相つぐ。その年も暮に迫った十二月十日、大手前会館で二部学友会が遂に結成された。これより遡ること三日、この時期の必要性を痛感し、同級の清原義郎、森田源郎、井上光雄、黄島昭雄、麻山一策（故人）柏木新天、宇都宮槙也に呼びかけ、十一月十七日「関西大学二部新聞部」を創立、十九日の第一回編集において初代主筆に白井幸雄せんしたが、そして学友会設立記念の文化祭が大手前会館で行われた十二月十日に創刊第一号が発行された。創刊号は麻山が堺刑務所に依頼し、二千部を印刷し一部十円で売った。紙面の大きさはタブロイド型（普通新聞紙大の半分）二頁で活字は風にいう新聞活字ではなく、印刷屋の持っている六号という四角な活字で、一頁八段、十五字づめであった。

題字は一部が「関西大学新聞」だから、こちらは「新報」でいこうということで簡単にきまった。用紙は配給制であったが、関大新聞が二部生徒も含めて配給を受けていたので新しい割当をもらえた。森田源郎が編集主任で、編集会議は毎週日曜の夜、二回に部員紹介がしてあり、前記八人の名前のあとに以下略とならべているけれど、もちろん陣容はこの八人限りであった。編集後記が載っているのも雑誌めいて面白いではないか。ここで創刊当時の役員名を掲いておこう。

新聞部長、白井幸雄▽天六支局長、柏木新天▽編集部長、清原義郎▽論説部長、麻山一策▽渉外部長、宇都宮槙也▽宣伝部長、井上光雄▽編部長、森田源郎▽庶務部長、黄島昭雄。

このうち、柏木、宇都宮は有名無実な存在であったため実動人員は六人であった。二号から印刷所を東洋紙業印刷にかえ、三号から無料配布にし、四号からは大型にし、六号から第二印刷に持って行き新聞活字を採用して一歩一歩と新聞の形態を整えて行ったが、年間予算わずかに五万九千円、このうえ部費をさく、編集会議は部員の自宅でやった。

最初のスクープ

こういう状況だからビッグ・ニュースはインドン関大新聞に抜かれて二万で、大学院修士コース設置の内容、学内審議会の設立など、いずれも後追って報道した。当時もこの二つの悩みは赤い学生の動きだけで、細胞から久野哲幸を送り込んできたため、編集会議は「国民」という言葉を「人民」にしろ、ごいないなどと夜を徹して激論した。こういうなかで反共に新報最初のスクープが細胞のドキモを抜いたのである。

それは二十四年五月入部した森谷昌欣が手に入れた細胞会議報告の秘密文で、現有勢力、運動方針を「関大共産党の全貌」として目のもとにさらしたのだから反響は大き、掲載紙八号が配布されるや社研の和田源義長が「あの記事は誰から取材したのか、秘密会議の自分の報告がそっくり載っている、恐らく党員から洩れたと思うので教えてくれ」といって飛んできた。だが取材の出所からだせば簡単、社研の部屋からガリ版刷りの掛紙を拾ったにすぎない。

創刊一周年は苦労の結晶であった。これまで殆んど創刊時のメンバーだったが、十二月になって新聞社一年次の勧告入部とともに、創刊時のメンバーが卒業を前に退部したため森谷が主筆となり、印刷所を新日本新聞等工務局（現在の新報が印刷している株式会社新聞印刷の前身）へ移した。この時の陣容は

主筆、森谷昌欣▽編集部長、小川博司▽論説委員長、亀田博▽取材部長、宮田保▽総務部長、堀谷良夫

学長に抗議文提出

九月二十日、第十五号を発行したが、この新聞で最初の問題を引き起した。事件のあらましはこうである。七月二十四日天六学舎で授業料値上げ反対の決議委員会が開かれることにさいしたが、学校側は当日の集会を禁止して一般学生の入門を許さなかった。当日の教育任管理委員会委員長学則二十一条違反によって退学を命じられ、一時は自治会と対立し険悪な空気をはらんでいた。これを取材に行った中村は、毎日と共同の記者が中に入ったのを幸に、「一般紙を入れて、学生紙をだせ入れぬか」と挑発的な言葉をなげつけていった。そして「入れないなら山田学生部長を呼んでこい」と叫んだ。結局、翌日の自由優先として岡野学長に抗議文を提出したところ、翌日学長に呼び出され「学長に抗議文をつきつけるとは何事ぞ……」とおどされたこともいまでは笑話になってしまった。これだけなら良かったが、取材が一方的で記事に主観が入っているというので発行当日新聞は押えられ、結局学生部長と折衝のうえ不適当な文学をケズって発行するという条件があった。十五号事件の発生は、役員の総改選を断行、小川博司が主筆になり、新しく参与制を設け渉会が参与となった。

パーク賃取りで号外

十月三十一日「千里山パーク賃取り成る」という初の写真入り号外を発行したが、濠川写真部員は飛行塔上に登ってパーク一図の決死的撮影（？）を行った。十六号では千里山学舎の五カ年計画新建築が特ダネである。関大新聞、関大一高新聞もともに本紙により遅れてこれを報じた。

新報社に対する新聞予算は年々増えているとはいえ、なお十分な活動を行うには不足がちで、赤字が次第に増えつつあった。そこで予算会議を有利に導くため小川編集長は中央委員を兼務したが、このため一部には編集の中立性に対する批判もあった。

元朝日新聞編集局長、当時新聞学科の講師をしておられた朝日新聞社友原田謙二氏には、二十一号から二十五号まで毎号「時評」をお願いした。これについてこんな面白い話がある。住友銀行支店に勤めていた部員の一人が本店へ広告を頼みに行ったところ、廊下の向うから当時の社長鈴木剛氏が秘書を連れてやってくる。鈴木さんは彼が手渡した新聞をみていたが「ホー、原田謙二さんが就筆していなさるのか。それでは広告を出しましょう」と快諾してくれたという。

天六版を設ける

九月に創立六十五周年記念号として八頁発行し、大阪で初めて高速度輪転機にかけた。一面に大学院を中心とした写真を入れ、そのなかに竹中郁氏に依頼した詩が刻まれている。二十七年四月、二部一年次生の天六移転にともない「天六版」を二面の一部に作り、電話克彦を天六支局長とした。五月、牟田口誠が主筆となった。

関大上空の航空写真

この時代は、いまもって伝えられるような奇人変人が多く、従ってこうした連中が相寄って新聞を出したのだから、新聞初期のそれに比べて内容的に大きく変ってきたのは当然だ。例えばやたらに広告が多すぎ、映画館、喫茶、飲食店などの広告、つまりいわゆる歌舞伎が進出したり、あるいはまた記事自体においてもこれまで殆んど載せなかった映画、演劇評がのり、時事週評が記載されたりした。この頃は全学連（全国学生新聞連盟）の権力が絶大であったため、二十七年の春に行なわれた市大講堂での全学新聞大会の席上、このこと（歌派広告が多すぎる）を指摘され、予算の削減を理由に弁明に努めたこともある。この指摘の対象紙とされたのは、一面半頁を航空写真で埋めた八頁建（29・30合併号）（二十七年六月三十日発行）で、広告スペースの減ぎ、写真挿入の大たんさは確かに学生新聞らしからぬ様相を呈している。この合併号一面の航空写真は、関大千里山の学舎全景を大阪新聞の"あけぼの"機上より撮影したものだが、当時は航空機がようやく新聞社に配備されたばかりで、この写真撮影を依頼するのに桜橋にあった観光飛行協会の当時無聞であった松本親男氏にお百度をふんだ。いずれにしても旧来のやり方を破って物珍らしいものにとびつこうとした風潮があったことは事実だ。当時の編集員の性格的一面を如実に物語る証拠である。

次のページへつづく

問題起した15号事件

時事通信、R・Pと特約

部長、貴島昭雄

二十五年春、新学期とともに千里山法文学舎（現在の第一学舎の位地にあった）の一角に部室が与えられた。たまたま旧千里山パーク（現在の一高一中所在地）譲渡問題が起り、その詳細な報道は絶賛を博した。六月から日本学生新聞界初の試みとして時事通信、ラジオプレス社と特別通信契約を結び取材部を二分し内信係長に森田照幸、外信係長に中村幸雄が担当した。主として国際政治、軍事、教育問題などを臨時取入れて既成学生新聞の型を破るべく野心を抱いたが、発足当日「全学連の組織と現状」を用いたことと、朝鮮動乱勃発に当って卓抜この解説を使ったほか以外には目立った効果なく、その後は自然解消となった。九月、新聞部を新報社と改称、また編集部を隣り合せになったため、親密感は一層高まった。

関西大学新報

昭和23年12月10日

発行所
吹田市千里山
関西大学二部新聞部
編集人
発行人
印刷人
白井幸雄

学びつゝ働く学徒に寄する

学長・法学博士　岩崎卯一

働きながら学ぶということと、学びながら働くということとは、外観的には同じ事柄の様にも見得られ、また日常生活の態様としても同一であるかも知れぬ。だが主観的な動機と志向とに立ち入って考え直すと、そこに甚だしい相違がみいだされる。前者はその日常的な生活意義を一定の報酬を伴うところの勤労の上に見出し、その時間的な余裕を学問研究に割くといふに止まる。この場合には、たとひ大学の制服を身にまとい、制帽を頭上に冠し、大学生らしい姿を示しても、その志向においては学生ではなくて一個のサラリーマンである。これに反して後者は、学問修得が全一的な目的であり、ただ修学資金を父兄その他の補助に仰ぐことなく、自己の勤労による報酬中から捻出するといふに過ぎぬ。この故に、たといその人が昼間の大部分を勤労先の持場で費し、夜間にだけ大学の教室に、図書館に、研究室に通ふたとしても、その精神において完全に学生であり、俸給生活者ではない。かかる場合には、その人は、単に各自の求むる講義ないし演習の時間を夜間に割り宛てられたものの中に選んだのに他ならぬ。

私は青年時代の大部分を、ニューヨーク市の高台に一大王城のように立ち並んでいるコロンビア大学での学生生活のうちに送ったが、この大学での講義と演習とは午前と午後と夜間とに配列され、而も正規学生をしてこれらの何れでも自由に選択させ得る仕組になっているのを見て、修学上の便宜を感じたことがある。各学生は、この所謂「十二時間授業」のうちに配当された各種の講義ないし演習の何れをも、自己の希望に基いて選び得るばかりでなく、選んだ学科の試験合格に依って獲られたポイントの価値は、何れも同一であり而も、そのポイントは、ひとりコロンビア大学で有効であるばかりでなく、他のすべての大学にも通用することに定められてあった。現に会社の重役である中老の一米国二学生のごときは、毎学期（三ヶ月半）わずかに午后の社会学教習二ポイントだけを選び、十ケ年間の大学通ひを悠々と続けていた。夜間に割宛てられた講義の担当教授中にも、斯道の権威者と目されていた顔触れが、相当に数多く見いだされるのを常としていた。

関西大学を新制大学に改編したとき、学長としてのわたくしが、第一に苦慮したのは、昼間授業と夜間授業とを完全に同一水準に置き、従来久しく日本人一様の心理にこびりついていた夜間学生軽視の謬った観念を一掃することであった。わか大学のもつ教授陣と設備とを最高能率において動員し、コロンビア大学流の「十二時間授業制」を採用することであった。

この試みは未だその目標に到達してはいないが、その第一歩が既に踏みだされている。新制大学の夜間授業を千里山学舎で試みることには、可成り激しい非難と忠告とを蒙ったが、わたくしは、この点では自己の信念を貫きとおした。

しかしながら、わたくしが真に落胆している眼目は、形而上的な授業の仕方だけでなく、形而上的な学生精神の更新である。夜間授業を選んだ学生の一人一人が、「働きながら学ぶ」というサラリーマン的な観念から、「学びながら働く」という真の学生精神に飛躍し、且つこれに徹することである。このことは決して勤労そのものを軽く見ることでもなく、またこれを忌避することでもない。勤労なくして社会生活が維持され発展しないことは、あまりにも自明である。だが、勤労の余暇に人文科学や社会科学を学ぶことは、青年時代でなくとも、出来ることである。壮年時にでも老年時にでも、学問することは可能である。わたくしが嘗てその地で目撃しつづけたイギリスの勤労階級者の大部分は、終身本を手から放さない読書家である。ただ「学びながら働くこと」だけは、原則として青年時代の特権である。そこにこそ、勤労学徒の誇りがあり、学生生活の特色がある。「勤労学徒」の、そして「二部学生」の特殊性とは、単なる授業時間と学費支弁源泉との事柄だけであり、学生精神そのものにおいては、何ら特殊性もないのみならず、断じてあってはならぬ。青春を識え、真理を追い、未来の指導者を以て、任ずる大学生の営びは、関西大学すべての学生に共通であり、また、あらねばならぬ。

主張

学生と学生運動

戦時中の私利と栄達、虚栄と形式主義、封建的な階級制が支配していた日本社会の実情は、学生の理性的批判に堪えるものでなく、又その社会に漲る悪雰沈滞は学生の真摯な努力に依っても遂に救えなかった。而して敗戦により多くの犠牲を課せられ、戦争の必然的結果たる難問題に囲繞されつゝも依然として古い世代は徒手空拳の有様である。深刻な食糧問題、失業問題、インフレの為生存を脅かされているにも拘ず、適切有効な対策は何等行われず、形式的に民主々義云々を唱え乍ら、実質的には民主々義云々を唱え乍ら、実質的には民主々義はそれは遥々として遥拝しない状態にある。遂に青年学徒が古い世代に期待する事を断念し、自ら日本再建の大任を担うべく志し、活発な動きを展開するのは尤た事である。戦争前に学生の実践運動を抑圧していた諸法令が撤廃され、選挙権が復活されて学生に政治的権利が認められ、文化、政治、社会の各領域に於て渇仰たる学生運動展開の運びとなったのである。

然し現在昨々年学生界に於て注目されてよい傾向は、一部の学生は終戦と共に次化、社会運動に飛び込み一途に邁進しているのに反し、大部分の学生が一洙の傍観逡巡を感じているという事実それである。さりとて、此等学生が日本再建に於ける自己の使命の自覚と実践活動への熱意がないというのは全く誤りであるといはねばならぬ。と云ふのは徒に未経験な分野に属する実践運動への漠然たる不安と戦時中低下を余儀なくされた学力にある。狐疑逡巡しているのではない。只青々学生は再び暴虎馮河の勇を繰り返したくないというのである。こゝに現代学生の自己反省の鋭さと思慮の深さが伺はれ、その遠度は一部の人には充分に評価せられている所以である。

いづれにしても吾国の学生運動は未来に属するという事が出来る。然も日本の再建は学生を含む青年層の活動如何に依存されるところ大である。凡そ学問は生活的実践を通じて体得されるときに始めて現実である。即ち、此の場合にのみ真理は生活を動かし生活を形成する力を持つのである。故に学問は生活を超越するかにみえるが実は生活に密ついている。げに大学は文化の推進力であるといはねばならぬ。

学問は吾々の自覚的契機に外ならず、両者結合の契機を無視して両者の区別のみを力説する時、学問は論理の遊戯に随し、真理は現実性のない単なるイデオロギーと化するのである。

遂に結論として文化、社会、政治運動に従事することは、それが学生にふさわしい限り、学問を妨げるどころか反って之を促進する学問の本質及び学問と実践との関係に就いての透徹した認識を前提とし、決して猪突、盲信独断、不和雷同的であってはならぬ。ヘーゲルのいったように感激から真理は生れない。学生運動は常に純理的でなければならない。（T）

総額971,770円

二部学友会　遂に予算決定！

十月末日に各部の予算書及事業内容部員数の提出を打切った中央委員会は十一月三日各部代表幹事を混え、予算審議に入り検討を続け各部共要求額を譲らず、長時間を労したが物分れとなる。以来中委会は鋭意予算面の解決のため審議を続け、十、十一日常任委員会の決議により予算対策委員会を設け翌十二日午後一時より九時迄の長時間を費して各部の内容を検討し遂に予算対委員会案の作成を見るに至った。十四日十時天六学舎に於て定例中委会を開催冒頭予算審議を掲げて議長に金本郁委員長を推し予算内容に入る。なお当日天六自治会より委員出席して活発な論議が斗わされ三ケ所の修正をみて予算対委会案が可決され中委会案を決定。続いて午后五時より予算総会を催して前記中委会案の説明各部代表幹事の忌憚ない討議が行われた。席上補本幹事長立って「予算決定を三日間延期され度し且十七日幹事会を開いて意志を決定したい」との発言あり、議長右提案を採決。

十七日学友会委員室に於て各部代表幹事及中央常任委員出席の下に予算審議幹事会を開催し、各部幹事の熱心なる検討が続けられて弁論、応援、社研、政経研、唐手山岳の各部より修正意見が出され幹事会は之を認め中委会の意向を正した。この時川西委員長諸般の説明後、中央委員及三役の名に於て予算の発表を行ひ満場一致で委員長案を賛成可決した。

前案を再び中央委員会に提案し本案を採諾し遂に難航を重ねてきた予算問題は十一月中旬を以て遂に決定を見るに至った。

×　×

予算決定額は次の如し（単位円）

学研部	一四五、七二五
文化部	一四四、一一〇
運動部	一〇一、九三五
新聞部	五九、〇〇〇
応援団	五五、〇〇〇
書記局	二八三、〇〇〇
自治会	四三、〇〇〇
文化祭	一四〇、〇〇〇
計	九七一、七七〇

堂々演劇賞第一位

—二部が生む学窓座—

一昨年七月発足以来勉学の傍々ひたむきな芸術への情熱を真のアカデミックな学生演劇の中に築き上げんと過去二年間僅か二十名たらずの部員に依って真剣な努力が続けられて来た二部演劇部（学窓座）であった。

昭和二十一年九月毎日会館に於て八木隆一郎作「湖の畔」を第一回公演として上演以来、実に公演十五回の歴史と伝統を創り上げ、昨年一月オール関大演劇祭には「修禅寺物語」を次いで二十二年度文化祭に於て菊地寛作「恋愛病患者」の上演は演劇賞第一位を獲得した。其の後宮津劇場の好意で宮津公演や松山高校職災復興資金募集の一役を買ったりして多大の成果を収めた。本年六月のオール関大文化祭には二部を代表して内村直也作「秋の記録」を以て之に参加し、よく学窓座—二部此処にありとの意気を示したのである。

今度の二部文化祭では大半は新部員のスクップ・キャストによる河岸（高橋早之助作）を上演することは決定しており、其の后の計画としては「明春第三回公演を行ふ予定でレパートリーにあっても真実性活動への熱意がないと断ずるのは全く誤りであるといはねばならぬ。と云ふのは徒に未経験な分野に属する実践運動への漠然たる不安と戦時中低下を余儀なくされた学力にある。狐疑逡巡しているのではない。只青々学生は再び暴虎馮河の勇を繰り返したくないというのである。こゝに現代学生の自覚的反省の鋭さと思慮の深さが伺はれ、その遠度は一部の人には充分に評価せられている所以である。

いづれにしても吾国の学生運動は未来に属するという事が出来る。然も日本の再建は学生を含む青年層の活動如何に依存されるところ大である。凡そ学問は生活的実践を通じて体得されるときに始めて現実である。即ち、此の場合にのみ真理は生活を動かし生活を形成する力を持つのである。故に学問は生活を超越するかにみえるが実は生活に密ついている。げに大学は文化の推進力であるといはねばならぬ。

学問は吾々の自覚的契機に外ならず、両者結合の契機を無視して両者の区別のみを力説する時、学問は論理の遊戯に随し、真理は現実性のない単なるイデオロギーと化するのである。

遂に結論として文化、社会、政治運動に従事することは、それが学生にふさわしい限り、学問を妨げるどころか反って之を促進する学問の本質及び学問と実践との関係に就いての透徹した認識を前提とし、決して猪突、盲信独断、不和雷同的であってはならぬ。ヘーゲルのいったように感激から真理は生れない。学生運動は常に純理的でなければならない。（T）

吾が卓球部燦然と光る　国民体育大会へも出場

去る四月より激えても優勝十回を獲得、二位七回、三位七回、四位四回等連戦優秀な成績を収めている卓球部では、部員一同よく団結—十一月の第三回国民体育大会にも堂々と出場して、夜学生にはうかしくない敢斗振りを発揮、よく尚同部の十二月行事予定は

三、四、五日全日本硬式卓球選手権大会を横浜で。紀大、堀内出場

十二日於大阪。大阪硬式選手権大会、紀大、堀内、坂田、中野、徽田、有福計六名出場。

十七、八、九日

全日本学生東西選抜軍対抗戦於明治大学　紀大、堀内出場。

は時を利用して宜しく体を練る事だ。卓球部を通じて関大二部のために充分活躍した吾々は時は時を利用して宜しく体を練る事だ。卓球部を通じて関大二部のために充分活躍したいならぬ運動不足勝ちな吾々

ぼんのう

世の中にはまぎらはしい事を判然とさすのを避けたがる人が非常に多い▼そのために大変な苦心を払っている向にくだらん努力の数々を▼ついこの前も社会党の西尾さんの如き党か個人かで揉めていた▼それに似た現象が関大学園に存在するというのである▼自校の暗部が何故そんなにはづかしいのか。又何故そんなにつまらないものに見えるのだろうか。そこの所ははっきり知らないが、あこ紐で適切に何だかどこかの暗部と見違えて貰いたそうに隠している学生がある。関大じゃない官大の学生ですよ、とは全部が全部じゃない▼それに対抗して知らぬが官立大学の学生があこ紐の上へこれ見て下さい、私は官大の学生です、間違って貰っては困りますとは、之もどうかと思う▼どっちもどっち然し両者のその操作に於て反対現象であるのに、世間に訴える顔心に於ては全く同一の心理より出づるものである▼煩悩の仕業かな。ホンノウ解して仏教では衆生の身心を悩乱し迷界に撃留せしめる一切の妄念と云ひ、その数が八万四千程あるといふから、此の中の一つに属する煩悩にとらわれているのだろう▼早くこの煩悩の犬を捨てて疎開先から正規の場所にあこ紐を張いてやっては、最近世間でいう疎開は続々元の住居に帰っていくというから。

来れ!!研学の集ひ

二部学友会には左の各部が他校に劣らず活潑な動きを見せ、学究の友来りて見よと各部主将及部長は多くの参加を望んでいる。

学研部＝哲研部、国研部、社研部、政経研部、英研部、近文研部、経営研部、文芸部。

文化部＝演劇部、弁論部、吟詠部

軍動部＝唐手部、山岳部、拳斗部、庭球部、卓球部（未設野球部）

祝　関西大学新報創刊10周年

校友会

会長　大月伸　宝塚市山面小場北一三ノ六

副会長　岡野衛士　豊中市本町六ノ一〇八

副会長　樫本信雄　大阪市東成区北中本町一ノ四五

副会長　長柄金吾　大阪市北区鳴尾町一〇

【総務部】
部長　寒川喜一　大阪市東区大手前之町府公舎

【事業部】
部長　村上精三　西宮市若楽園三番所八

【広報部】
部長　林信夫　堺市戎三町東四ノ五二

【組織部】
部長　門上敏夫　枚方市渚八四

【財務部】
部長　西村治三郎　尼崎市金楽寺宅地二三

創刊号の第二面

この面も写真、トッパンは一つもない。主として各部のニュースで埋められているが、「中央委員長に就任して」をトップに置いたため新聞というより雑誌のような感じになっている。雑誌といえば「学歌」「学長訪問記」「編集後記」なども新聞の形としては奇妙であろう。広告も一、二面を通じて一つも入っていない。しかし当時はこれで精一杯だった。

中央委員長に就任して

学法三 川西元治

(医学の身であっても一度中央委員長に就任した限りに於ては、組織の確立に運営の充全なる把握に努力してゆきたい。今若干の意見を述べ御参考に供したい)

一、学友会の必要

——組織の確立と客観的状勢の克服——

実的要請に応え、吾人は屢次に亘り、会合を開き諸条件を附議し検討したる結果、茲に学友会設立に意見の一致を見たのである。

吾人は夜間学校に学べる「二部」の学生である。自ら勤労し、荒き波風を身に浴みて培え忍び、生活向上に努力せる学生であるが故にいかに現実社会と理想の社会との一致を見んと欲することが困難であるかを充分体験しているのである。しかし尚、かゝる現実社会に於ては、私立学校の卒業生、就中夜間学徒の出身者は、時に通学時間の関係より雇傭者に同れる時に官公立諸大学出身者と競い、不撓不屈の努力を重ね成長し来つのである。

社会人の無智は一接するに差別を以てし、遇するに職階制を以てせるかを問き屡々吾人の憤懣を醸さしむるのである。

こゝに学友会組織を樹立し、学問攻究の殿堂としての大学を内面的に進展せしめ、飜へって対外的には諸大学と提携し、社会的にはその認識を再確認せしめんと欲したればこそ、ここに学友会の中央委員長に就任したのである。

実に学友会はその使命に於て、その必要性に於て、必然的帰結の結果せる産物なのである。

そこで吾人は諸君に学友会の本質を先づ考察して貰はねばならない。次に学友会の性格を政治的には割判断に渇いて、検討して貰はねばならない。前者は事実についての認識であり、後者は目的論見地に於て捉える政策如何の点である。両者の密接な連関により学友会の運営—政治的なる—を仔細に検討して戴きたいのである。

かくして組織が確立せば、次にかゝる学友会組織を必要ならしめかゝる結合は全く、精神的結合である。」と。部分社会としての大学それ自体と異り、且又部分社会としての国家、教会、労働組合と異るなどは凡そ述ぶるまでもないことである。

わが学友会はその会則第二条にこの事を規定して曰く、

「本会は会員相互の親睦を図り学内自治を念からしめ、併せて健全なる精神、身体の修養向上に努め以て関西大学建学の趣旨に基ける校風を振興するを以てその目的とする。」と

われ茲に喋々の説明を加うるは、徒らに死兎の艾を焚うるに似たる。故之を省く。

(概観上述の如き至極論理整然とせざる私見と、その抱負を述べたのであるが、論側々非礼に及びたるふところあらば、平に御容赦を乞ふとして、何卒御支援と御協力を乞さって、今後の本会の運営に万善の策を御教指賜はるべく、ここに懇請し擱筆する次第である。

校歌

人の親和
自然の秀麗
たぐひなき
我等たち
人生の曙に
燦たる理想を仰ぎつゝ
学ぶは一途
若き心に、たゝえなん
関西大学
関西大学
長き歴史

学長宅訪問記

十一月廿三日休日を利用して本紙部長を同伴し、京都府乙訓郡海印寺村大学奥海印寺小学東代というやゝこしい所にある学長宅を訪問した。新京阪長岡天神にて下車徒歩にて名高い タキイ農事研究所を過ぎた所に一軒だけ田圃の中に点在しているのが教えられたままのお住いと分った。丁度行はれるか

記者「行はれぬだろう」

学長「学生の出席率について」

大小島教授「最近の学生は出席率はよくなったようで、二部も極めて良好である。概して関西の学生は関東よりも優秀であると思ふ」

記者「共学の成果は」

教授「昨年予科に二名今年十数名も入学したが、トラブルは起ず」

記者「来年度の専門部生の募集は」

学長「私は自分の経験から来国の例を挙げて強硬に反対した。昼間と同じく四年制が望ましい。文部省の意見も大体四年制に傾いて来たが総司令部の方針もあり、問題が再提起され、尚審議中である」

記者「共学の立場で!!」

学長「教授陣に関する事は遠慮なく各部長を通じて申し出るやう。尚親父に対する気持で、学長の悪口を言って貰い度い」

日も西山に没しこゝ海印寺村も停電に頃はされて四方暗く黄昏の月を仰ぎながら午後五時半帰途に着いた。邸内には学長自身の手になる菜園に大根、葉が青々と豊穣の秋を思はせていた。(清原生)

私学は私学の立場で!!

関西学生 拳斗界の雄

斗士三十余名の部員を数へる二部拳斗部員は、時間的に不利な条件の下、不断の修練に、ひたすら技術を磨き、その活躍は、目覚ましく、関西学生拳斗会の雄たるの位置を完全に保っている。

(主なる成績の一部左の通り)

▲五月三十日 堺市立運動場

学友会各部ニュース

〝学の探究 真理の探究〟

社会科学研究部の動き

社会のあらゆる現象に対して科学的分析を行ひ、理論と実践に於てその解決を見出すことをモットーとせる二部社研は、十月五日発足以来日尚浅きにもかかわらず毎週研究会、討論会を行ひ関西社研連の重要な地位を占めその活動は注目されている二部の研究部としては最高の予算を獲得し、部員も百名を突破し今後更に講師の招聘等も行ひ学生運護の推進力たらんとしている。

神鍋スキー場で冬期合宿

山岳部大いに張切る

太陽の下で体育に恵まれぬ二部左は休日を利用して活動する外、道はないと山岳部では次の如く予定している。

◇十二月中旬、道場河原百丈岩附近でロッククライミング冬期練習を二泊三日で行ふ。

◇明年一月上旬、神鍋スキー場で三泊四日のスキー術習得練磨及雪中キャンプ演習をする。

芸術論研究会と近代文学講座

十二月十二日と十九日の両日曜に亘って天六学舎で午后二時より芸術研究会が近代文学講座を行はれるが、之と別に三日間に跨って近代文学講座としてリアリズム研究がある。(詳細は追て同部より発表される筈)

◎研究論集原稿募集

(一)、原稿用紙(四百字詰)廿五枚以内

(二)、内容 文学に関する研究全般

(三)、締切 来年一月十日(月)

近代文学研究部

関西大学 弁論部の存在

経済不動の存在として伝統を誇る我が二部弁論部は茲に新開を通じて足跡の一片を学友諸兄姉に発表し得る機会を得て欣快に思ふところである。

「今や吾が国家が当面せる危機は我々青年に課せられた危機であり、これと対決してこれを克服して行かねばならぬ当局の命題でもある」我々の眼前に展開せる、政治的、経済的、停滞濁沌たる社会相、それらが我々の精神内に入り憂鬱となり、ニヒルとなり、健全たる理念をむしばみ、又マンネリズムとなり、シメミズムとなり、健全なる睡眠に誘ふのである。我々はかゝる内的危機の克服と同時に、又、外的に積極的行動に訴へなければならぬ。

我等が祖国を憂ふる心、同胞を救はんとする真情、社会悪を糾弾する雄々しき叫びこそ、我が関大二部弁論部の使命でもあり、又、存在の意義である。

昨年七月、傷病者援護資金獲得運動、同年十一月、難波駅前、文化会館にて、文化講演会開催、アカデミックな関大ルネッサンスの花を大阪の一角に咲かせたのである。又本年十月共同募金運動に参加、多大の効果をあげた。

「一国家の繁栄は必ず国民の自由なる意志の表明が政治に反映し、実践された時代である。かゝる意志の表明は正義と真理に立脚せる言論によりてこそ、その効果は最も大である」かのギリシャ、ローマの繁栄時代、憂国の士が大衆を前にして熱叫した。諸兄姉よ、文化国家に資せんとする、ひたむきなる若き情熱を我等が弁論の下に叫合しようではないか。(紹生)

来年一月一日より三日間、休日を利用して四国四県、高松、九亀等主要都市に遊説啓蒙、新憲法普及、文化啓蒙の三つのスローガンで、百二十人二班に分かれて行動の予定。

二部新聞部役員名

去る十一月十九日第一回新聞部総会の結果左の通り本年度役員決定

新聞部長 白井幸雄
天六支局長 柏木節夫
編集部長 清原義郎
論説部長 麻山一策
渉外部長 宇都宮慎也
宣伝部長 井上光雄
経理部長 森田澄郎
庶務部長 貴島昭雄
(以下略)

新聞部原稿募集規定

(一)、研究論文、コント、随筆、其の他原稿用紙四百字詰五枚以内(締切本年末)

(二)、届先(休暇中のみ)学部予科天六の各ボックスおよび芦屋市宮川町四十六番地 白井幸雄宛

編集後記

○此度学報発刊に当り多数の原稿を寄せられたことに就いて深く感謝すると共に印刷の関係上紙面がグロイド版のため一部しか掲載出来なかったことを深くお詫びします。寄せられた原稿は次々に流して発行する予定ですから大方の御諒承を乞ふ。

○人生の最初の十年間にたて続しあるものを、人々は常に愛し又常になるものであろう(ハンスカロッサ)吾吾は吾吾が最初に作り出した新聞を常に愛し常にもり立てゆくよう願みます。(K生)

野声

投稿歓迎 所在明記 紙上匿名可

試験期をひかへて

来年の二月には我々学生の一大関心事たる試験期に入る。こゝでお互いに熟考を要することはその試験日割である。現在同一時間に学科目の重複があるが重複せる科目は当然受験資格を与へふきであるわけでもなく一時間に二科目も受講出来ない従って試験のみ受けると言ふ事は不可能だ。単位を取るのが目的ではなく学問することこそ学生の本分だ、と言ふかも知れない。然し昼の暇な時は一部学生に交って、あるひはお互ひに助合ひ又一方が休講の時は進んで今一方の講義に出て勉強に邁進している二部学生の如何に多いかを考へてほしい。極言すれば一時間も出席しなくとも現行の制度では受験資格は与へられているのである

又九月頃、盛に行はれた時間割変更により、今まで受けていた科目が受けられなくなったりして多数学生が迷惑している事に対しても明かに責任を感ずべきである。一方一部に席を置いて夜受講している者もある。それは最も賢明なる法というべきである。二部設置に際し学校側はあくまで一部と二部との公平を云々した。試験に於ても理屈は抜きにしてあくまで公平なる時間割配当をされる事を望んで已まない。万一今度の試験に於て二部学生に少しでも不万の念を抱かしめたとすれば来年からは二部に席をおく馬鹿者はなくなってしまふであろう。学校当局の早急なる明示を待つ。(法二M生)

応援団の活躍 愈々熾烈

千巌団長の下七十五名は一致団結して団員相互の切磋琢磨、熱、力、愛の精神且剛健の気風養成を綱領として学風振興の推進力たらんと学内に於ける応援指導に寧日なく本学運動部の対外的試合の輝ける戦績の陰にその活動自覚しきものがある事を銘記しなければならない。本年五月より十一月に至るまで実に二十数回に及ぶ対外応援並びに会合を行った。

尚山中副団長は「冬の到来と共に外的活動の時機は過ぎたので明春迄は主として内的な身心練磨に力を注ぐ計画中です」と言葉少く語った。

関大、関学、大専、立命の各大学出場、二部より伊達、高尾出場、伊達、KO谷村(篠原拳)

▲六月十日—十五日 東京遠征、全日本学生拳斗大会に出場、一部より伊達、鈴木二名参加。

▲七月十日 北野ガーデン 伊達KO(鎌田大専)

野声 投稿歓迎 所在明記 紙上匿名可

共学の成果

共学の成果はいつ頃から生新聞から脱線した観を呈した。九月十五日発行の38・39合併号から再び販売側(二部)に切り換えた。

予算の赤字問題が目的であったが売れ行きは好調であった。

第三種の認可受ける

二十九年四月から第三種郵便物認可申請の為の毎月定日(十五日)発行、四頁制の原則を定め、翌五月二十九日認可を受けた。こうしたなかで九月、主筆が金沢奉職に代り、さらに十一月に法学部出身の人事異動もひんぱんに行われた。編輯部長の人事異動もひんぱんに行われた。十二月に入って、本紙発祥地の新聞部長に、学友会の大学側に公表を要求する。

特集面に横組み採用

いよいよ第十一年目から会議制可決されたが、この間の経緯は、学生大会(新聞会議制可決)が結成された。翌三十年は創立七十周年に当るので五月から記念号の発行準備にとりかかり、失敗の原力を元で十月一日「クラブ関西大学」を発刊、さらに十一月五日に記念特集号八頁新聞を緊上げ発行した。さらに十一月二十二日、学生大会(新聞会議制可決)が結成され、予算面に対する確保を要求され、予算面に対する確保を要求されて、学生大会の一部執行委員と現役との親睦機関であるKPOとの懇談会の結果

自由と人権の現実的基盤

てい談〝学生の条件〟

（最近の学生生活は生活苦という実感とうすいといいますが、好むと好まざるにかかわらず、ますます政治的問題にかかわって来ています。そこで、今日のテーマは、民主主義の危機が叫ばれ、種々私達の社会の将来に大きく影響する社会的問題が起っているときに、学生生活はどういう現実とつながっているかということを見つめたいと思います。そして、学問や思想への態度、学生生活の社会化の問題、学生運動と大衆運動の問題も具体的に考え直さねばならないみんなの課題に触れるでしょう。この意味から、今年もあと一カ月になった今日、お挙いにはなりましょうが、お話を願ったわけであります。（会場で編集局員のことばから。）

【左から藤本、細野、岸本の各教授】

自由主義の下で矛盾して来る人権の要素

藤本　自由と人権を問題というとき、近代主義の必然性が非常に強いと思うのですよ。歴史的になって、人権の意味は〝自由〟と〝平等〟の二つで、〝自由〟の方はブルジョアの革命で一応の目的を達したのですが、〝平等〟の方でもう一つの運動が起ってはじめてなかった。まり、一九一七年のソ連革命を通して、今日自由と平等の使命が結びついて人権として各国の憲法、そして日本の憲法に両方とも取り入れられて来ているのです。だが際には、いわゆる自由主義の下でこの二つの人権の要素が矛盾しているのではないかと考えます。これをどう解決していくか、それは、むつかしい問題ですけれど、この矛盾を無視していかなければ、この矛盾を無視しないんじゃないかと思うのですが、どうでしょう。ですから、

細野　自由と平等の問題ですね。

藤本　つまり人権での自由と平等の社会的方向として、矛盾という形で来たということ。

細野　どうでしょう、この矛盾というものは。

岸本　〝人間の条件〟をみると、たとえば憲法を持っていても兵隊たちは実際の行動で命令される通り、いわれる通りにしている。この日本の兵隊と同じようなことが、自由と平等の問題次にあるんです。ソ連兵が満州にはいって来たのはある意味で〝解放〟だったかもしれないが、婦女を犯したり、暴行を働いたり、あの連中たちは思うのですが、どうでしょう。でもそうしている。彼たちはなんとしてもこの矛盾を解決しようとしていたのです。イデオロギー的対立がすべて力を誘発するというのは日本に多いわけですね。

岸本　それはやはりデモクラシーの歴史が浅いということ、それから日本の国家思想に感情組織一非常に感情的な力があるんですね。組織そのものが未熟だった。人間解放とか近代制度とかの以前に、国家権力や官僚機構の中にこんな感情的対立がそのままになる。何といいますか非常に抽象的なことばですけれど、解釈の相違はあれ、一応人間以外の精神に傾倒している。たとえば、自分たちの思想からはずれるものを反発したり、村八分を当然のことのように行う、こんなことは案外あるんじゃないですか、方法が違うと各人の目的まで違ってくるような。

細野　これは、デモクラシーとは、それぞれの人間が、それぞれ身に拡大しようとしても少し本当に客観的にする正しいものはないかとか、相対的な立場で考えるとかとか、そういうものを求めていくのには、自分たちの考えと違った世界の人の意見を聞くことが必要なんだね。反対的見解の左翼の人たち、右翼の人の意見を分けて聞くことが、客観性のあったものというものはわれわれに思想や定義を与えてくれている。マルクス主義もそうだし、哲学とか社会的倫理とかはよくわかられてきている。そういうものをもう一つ社会科学の方面から検証してみることです。実存主義とか、そういうものだけを読んでいるというものもあるのです。

藤本　私のところでは、この間一部の応援団のものが二部の学友会の委員に暴行したことがあったんですが傾向として非常に保守的で権威と単純的な後者との間の感情対立がすべて力を誘発するというのは日本に多いわけですね。

岸本　それはやはりデモクラシーの歴史が浅いということ、それから日本の国家思想に感情組織一非常に感情的な力があるんですね。組織そのものが未熟だった。人間解放とか近代制度とかの以前に、国家権力や官僚機構の中にこんな感情的対立がそのままになる。何といいますか非常に抽象的なことばですけれど、解釈の相違はあれ、一応人間以外の精神に傾倒している。たとえば、自分たちの思想からはずれるものを反発したり、村八分を当然のことのように行う、こんなことは案外あるんじゃないですか、方法が違うと各人の目的まで違ってくるような。

細野　これは、デモクラシーとは、それぞれの人間が、それぞれ身に拡大しようとしても少し本当に客観的にする正しいものはないかとか、相対的な立場で考えるとかとか、そういうものを求めていくのには、自分たちの考えと違った世界の人の意見を聞くことが必要なんだね。反対的見解の左翼の人たち、右翼の人の意見を分けて聞くことが、客観性のあったものというものはわれわれに思想や定義を与えてくれている。マルクス主義もそうだし、哲学とか社会的倫理とかはよくわかられてきている。そういうものをもう一つ社会科学の方面から検証してみることです。実存主義とか、そういうものだけを読んでいるというものもあるのです。

藤本　実感が生々しいというものの〝実感〟が自己を無視している。皮肉ですよ、自己というものを見る目がない。

細川　実感が先行するというのは過去のものと本質的なものとを区別して自覚をもう少し限定していかなければならない問題があるんじゃないかと思うんですがね。

岸本　文化祭を見てもサークルがあってやるんだけれども、平生のサークル活動が低調なんですね。そういったことの解決を求めていかないと、学生運動自体にも通じ得ないかないと、今の学生運動の中心となっているバンジョンやエネルギーを持っていることの具体的形でやるというのは、ラモ、ストのみに発散されていく傾向があるんですね。

細野、藤本　同感ですね。

藤本　私も、哲学科に入ってきましたころ、学生生活を明るくすべき問題をもっているわけですね。

細野　それはのっぱりけれど、やっぱりそれぞれの人間が、それぞれ身に拡大しようとしても少し本当に客観的にする正しいものはないかとか、相対的な立場で考えるとかとか、そういうものを求めていくのには、自分たちの考えと違った世界の人の意見を聞くことが必要なんだね。反対的見解の左翼の人たち、右翼の人の意見を分けて聞くことが、客観性のあったものというものはわれわれに思想や定義を与えてくれている。マルクス主義もそうだし、哲学とか社会的倫理とかはよくわかられてきている。そういうものをもう一つ社会科学の方面から検証してみることです。実存主義とか、そういうものだけを読んでいるというものもあるのです。

藤本　実感が生々しいというものの〝実感〟が自己を無視している。皮肉ですよ、自己というものを見る目がない。

細川　実感が先行するというのは過去のものと本質的なものとを区別して自覚をもう少し限定していかなければならない問題があるんじゃないかと思うんですがね。

岸本　文化祭を見てもサークルがあってやるんだけれども、平生のサークル活動が低調なんですね。そういったことの解決を求めていかないと、学生運動自体にも通じ得ないかないと、今の学生運動の中心となっているバンジョンやエネルギーを持っていることの具体的形でやるというのは、ラモ、ストのみに発散されていく傾向があるんですね。

細野、藤本　同感ですね。

自由獲得の歴史は階級闘争の歴史

岸本　今日のように資本主義の社会では階級的な対立があります。この階級の間における自由の保障とか、いわば支配者が、〝保障〟するものの基本的人権を獲得するものだといっていいでしょう。自由獲得の歴史というのは階級闘争の歴史ということもいえるでしょう。この行動を通じて権利を獲得することと権利を行使することが自由の非常に大きな内容ですね。まず、そういう点で言論の自由とか、集会、結社の自由とかの多くが今まで認められていなかった時の人たちが、支配者に対してそれを認めさせるように、自覚というもの、大衆的運動というものが、

本紙に望む声

学内世論調査

戦後のまだ混とんとした中に生れた新報社も今年で十周年を迎えた。十年一昔というが、"十二才"から出発したわが国の生長、とくに学生の歩みの厳然とした足跡は本社の歴史にも明らかに印されているこの段階の中におって、全員購読という他に類をみない制度を本紙がとるようにおいてから早や三カ年を過ぎようとしている。財政的安定を得ることによって他のどのような権力からも侵されることなく、真に学生のあり方を示すべく始められたこの制度は、単に同好の志の機関紙から脱して、全学友の利益を守り、啓蒙啓発するという重大な使命を背負った。こゝに学友の意見を知るために、十二月六日新聞に関する世論調査を行った。星霜は移られず、幾度となく苦汁をのむ思いをしたこゝに学友の意見を知るために、十二月六日新聞に関する世論調査を行った。

79%が全員購読制に賛成

配布方法はまず及第

◇全員購読制を知っていますか。

知っている	七一%
知らない	二七%
無解答	二%

新聞を配付しているとき、よく"ただですか"と問かれることがあるが、この知らないという二七%の数字は、学友会活動に無関心な者の数を示している。単に活動のみでなく学友会費の使途を知らずに賛助金を払っているとしか解せない。

◇全員購読制に賛成ですか。

賛成	七九%
反対	一七%
わからない	四%

全員購読制は知らなかったが賛成であるというものがみられ、本社では予想外に賛成を得たのでますますその責任の重いことを痛感した。反対の意見の中に読みたくないものだけが勝手に読んだら良いというものがあったが、全員購読制の意図や性質が充分に理解されていないのではなかろうか。

◇本紙を読んでいますか。

読んでいる	六一%
ときどき読んでいる	三三%
読んでいない	六%

◇配布方法はよいと思いますか。

よい	五八%
悪い	二九%
わからない	一三%

本紙が発行されると、校門やそのほか数力所で約三日間配るほか、その後も学友会、ホール、学生課前、社会前におき、随時手にわたるように心がけているが、常時寄稿者の不安定なために、部員の手不足と時間的余裕がないことで、学友すべてに行きわたっていないようだ。今後配布日数を増やすとともに他の方法を検討中である。

◇本紙の特にどのような記事を読んでいますか。

論説、学生春秋	四八%
記事の目、解説記事	二五・七%
ニュース	一八%
学芸	八・三%
その他の企画	

◇本紙のどの記事が優れていると思いますか。

論説、学生春秋	五〇・三%
記事の目、解説記事	三一%
ニュース	一一・七%
学芸	七%
その他の企画	

◇今後どのような記事に主力を注ぐことを望みますか。

論説、学生春秋	四二・七%
解説記事	一九・六%
ニュース	一六・七%
学芸	二%
その他の企画	

論説、解説類に関心

企画ものの充実も要望

以上は本紙の内容についての数点である。

各問題を通じてやはり論説、コラムなどに関心が多く示されているが今後の希望に関する問の解答に、その他の企画に力を入れることを望むものがかなりあることは、数字だけでは推察できないが、意見にもしばしば書かれてあるように企画物に期待するところが多いのではなかろうか。

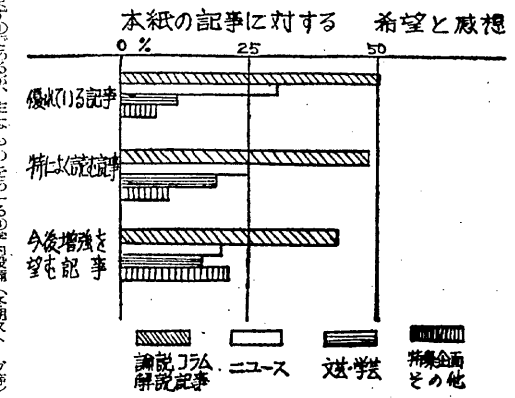
◇生活に身近かな内容を

◇その他意見があればうかがわせて下さい。

その内容を大体①企画についての具体的意見②編集方針に関するもの③配布方法に関するものの中で、大別できた。

まず①であるが、主なものをあげてみると、最も多かったものは二部学生の生活に身近かな内容をもつ記事を望む意見で、具体的な方法としては①学生相談欄を設ける②文芸面に読者の創作作品を採用する③学生の体験談をとりあげる④学内設備（冬期ストーブ等）の改善、各課への要求などの意見主張の欄をつくる⑤クラブ活動に関する学生新聞という使命やレベルから考えて、単なる学内活動にのみにスペースを多くとるということは限度がある。

これらのほかに、有識者のエッセイ、教授の論説、紹介などの希望がよせられ、現在までの本紙に不足していた点の指摘に大いに今後の参考になった。



"執行部の色"が強すぎる

つぎに、本紙の編集方針についての批判や意見であるが、かなりの者が学友会執行部の機関紙の印象をうける、左傾している、とのべており、中立的、中庸の態度を望むとある。ここに問題となるのは中立的もしくは中庸という立場であるが、単純に中立的であることを良とする考え方は妥当ではないと思うがどうであろうか。一般商業紙の、特に二流紙における与党野党に対して暗嘿両成敗的立場をとることが中立的であるということは当らない。少くとも、読者の知識がある程度一定水準にある大学の学生新聞においては、社会、政治問題に二つの方向が見出されねばならないのではなかろうか。新報社も学友会組織の一つである以上、学生の平和と利益を守る点において学友会執行部と同じ理念に立つものである。しかし、そのあり方についてはいかなる機構に対しても新聞は冷静な批判検討によって被る見とする方向を提示することが、本来の中立的立場ではなかろうか。本紙は学友会執行部の機関紙とは異なるものであり、左傾しているという批判は当らない。

配布方法については、期間の延長、無人ボックスなどの設置などの意見があったが、本社としてはこの意見を参考にして万全の方策を考えるつもりである。

その他、本社部員に対する激励の言葉や、今までの記事に対する感想など数多く寄せられた。今まで直接に多数の学生諸君の意見を聞く機会がなかった本社にとって、今回数多く寄せられたこれらの意見は、本紙の独自性を限定し、今後発展するための重要な糧となるであろう。

歴史と信用・堅実な経営
住友銀行

大阪・名古屋・伊勢を結ぶ大動脈
近鉄特急ダイヤ

大阪上本町発	近鉄名古屋発	宇治山田発
7.40	8.00	8.40
•8.40	9.00	9.40
9.40	10.00	
11.40	12.00	•12.40
13.40	14.00	14.40
•15.40	16.00	16.40
17.40	18.00	•18.40
18.40	19.00	
19.40	20.00	20.40

増設特急　上本町発 9.40 18.40
名古屋発 10.00 19.00
•印は二階展望室つきビスタ・カー
座席指定特急券　5日前から発売
近畿日本ツーリスト　交通公社　特急始発駅
近畿日本鉄道

連続（春秋）優勝なる

準硬式野球最高殊勲賞に橋中君

関西二部準硬式野球秋季リーグ戦の優勝決定戦本学対同志社の試合は、十四日午後一時三十分から塚口の三井銀行球場において行われる予定であったが、同志社が棄権したため本学の優勝が決定した。午後二時から授与式が行われ谷塚運営委員会長から本学北浦主将に賞状の大優勝旗が手渡された。そのほかスポーツ新聞社賞（殊勲）優勝杯などが授与され、ここに秋季リーグ戦の幕を閉じた。この結果本学は春に引続き覇権を握った。また個人賞として、首位打者賞ならびに最高殊勲選手賞に本学橋中選手が選ばれた。

優勝の足跡

関西二部準硬式野球秋季リーグ戦の最終日は、十二月七日午前九時から本学上田グランドで行われた。大工大対大商大戦のあと、本学対近大戦を予定であったが、近大が棄権したために不戦勝となり、第三試合の同大対大商大戦の結果で三位になるか優勝決定戦に持ちこむかが注目された。結果は同大が対2で商大敗れたため本学と同率の六勝二敗となり、優勝決定戦に持ち込まれた。

▽優勝決定戦までのリーグ戦成績は次の通りである。

第一週（9月31日）
同志社　8×1　関大二部
第二週（9月7日）
関大二部　18×8　大商大
関大二部　0×1　大商大
第三週（9月14日）
関大二部　5×0　大工大
第四週（10月12日）
同大　10000000020=3
関大　0001000001=1
大工大　0024011110=9
大商大　0000303006=6
第五週（10月26日）
近大　0000000000=0
関大　1023020201×=9
第七週（12月7日）
関大（棄権）近大

＝写真は青空のナイン＝

北浦主将の話　春季リーグ戦を全勝優勝で飾った当部は、現在部員三十六名をもって全く発実しており、秋の優勝をかけた同大との一戦を控え平中におきまる自信はある。部員一同は現在ベストコンディションにあり、チームワークも上々で、春秋連勝をめざして大いにはり切った。春につづき殊勝出来たことはうれしい、部員のコンディション、チーム・ワークも上々だっただけに、棄権で残いたかった。

日大に敗れ三位

全国学生相撲選手権

日本相撲連盟主催、毎日新聞社後援、第第回全国学生相撲選手権大会は、去る十一月二十九、三十日両日、午前九時から大阪府立体育館で開催された。大会第一日目は関西学生相撲連盟、毎日新聞社後援、これぞれリーグ戦を行い、各パートとともに優勝した八大学が上トメントに出場した。本学相撲部はリーグ戦に優勝し、決勝トーナメントに出場した。

第二回戦は慶大学を四対二で破り、優勝戦に挑み同じ関東代表の日大学と顔を合せたが、惜しくも四対二で敗れた。

日大4—1本学
先鋒　×野見—山村○
二将　○谷本—中野×
中堅　○高木—岡崎×
副将　○相沢—鈴田×
大将　○早川—寿　×
▽三位決定戦
関　大4—1関　学

33年度体育会総決算

本年度の体育会の活動も野球を最後にシーズン・オフとなり、これからはアイス・ホッケー、スキー、スケート、マラソンなど体育会の陣に入る。ここで本年度の体育各部の活躍を、戦績をみながら回想してみよう。

本年度体育クラブの活躍はなんといってもアジアオリンピックにフライ級に優勝した拓殖男選手である。その数選手を有する柔道部の活躍はめざましいものであった。

五月行われた関西アマチュア新人戦に柳井選手が出場、優秀選手に選ばれ、春季リーグ戦に第一位、十月上旬に行われた第西対抗の優秀選手に四名が選出、四名に五名が出場と誇かしいのである。また個人では、数選手がメキシコに行われたダイヤモンドベルト大会に第一位、サンフランシスコ大会で一位と国外においても誇れる大会なものであった。

次に相撲、野球両部の活躍が目立っているが、まず相撲部についてみると、四月の西日本学生選手権選抜試合に十四名の選手が出場し、優勝戦に進出、惜しくも敗れたが、準優勝の成績をあげた。

五月の西日本学生相撲大会に団体優勝を初め、七月に行われた全日本選抜七位大会に二位、九月の山城大会に優勝、十月に開催された西日本選抜大会に二位と抜群の成績を収め、個人戦でも四月の新人大会に二、三、四位、五月の布施大会に二、二、四位、六月の西日本選手権大会に二位と意派な成績を収め、本年は寿選手を中心に来たる大会の期権を一手にと現在練習に励んでいる。

一方、野球部は春季リーグ戦において、大工大、近大、大商大、同大を連破し、完全優勝をなしとげており、秋季リーグ戦に優勝、東京大学、慶大、明大、日大、法大、早大、立大、東大、専大、中大、拓大、学習院大、日本体育大、日本大学、東洋大、駒大、亜大、国士舞大、大東大、東京学芸大、東京教育大、東京農大、東京工大、東京水産大、東京商大、東京外大、東京都立大、東京学芸大、東京理大、東京都立大、東京学芸大、東京理大、東京都立大、東京学芸大、東京理

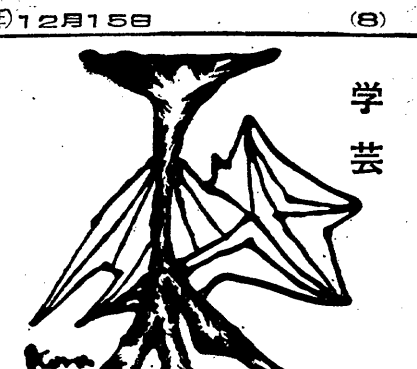
学芸

感銘呼ぶ象徴的作品

「老人と海」洋画「つづり方兄妹」邦画

〝技巧〟よりも〝主題〟を取る

辻部政太郎



カット・西村公郎

寸言

幸福についてのあらゆる問題が内包されている。

映画の技術的・芸術的可能性の前進の問題、映画の主題・素材の傾向と表現形式の問題、映画の興行形態―特に資本力と作品成果の関係の問題、映画の国際性と民族的特質の問題、映画に対するテレビ攻勢の問題、日本映画に関して、二本立併映興行の自己矛盾と作品のヴェル低下の問題　等等。

そのそれぞれにメスを入れて行っても、問題の根元は、一つこの根深いところに潜在しているのである。

ここでは、もう少し気軽に、恒例に従ってベスト・テン乃至ベスト・ファイブ選定というような形式をとって、その間、問題的に形で、芸術の問題提出と、僕の主張とを、にじみ出させて見ようと思う。

（一）洋画の「ベスト・テン」

先ず、はじめに、今年封切られた外国映画のうち、僕のベスト・テンを選んでみる。

順位　作品名　国別　監督

1　老人と海　米　ジョン・スタージェス

2　戦争と貞操　ソ　ミハイル・カラトーゾフ

3　鉄道員　伊　ピエトロ・ジェルミ

4　先生のお気に入り　米　ジョージ・シドニイ

5　この眼で見たソ連　西独　四人のカメラマン

6　女優志願　米　シドニイ・ルメット

7　若き獅子たち　米　エドワード・ドミトリク

8　マダムと泥棒　英　アレキシンダー・マッケンドリック

9　死刑台のエレベーター　仏　ルイ・マル

10　愛する時と死する時　米　ダグラス・サーク

〃　最後の楽園　伊　フォルコ・クイリチ

その他の問題作・傑作として、「静かなるドン」（ソ）、「わたしの可愛い人」（ポ）、「スパイ」（仏）、「嵐」（伊）、「青春物語」（米）、「眼には眼を」（仏）、「めまい」（米）などをつけ加えておこう。

ただし、問題作で、見逃しているものも、例えば「戦場かける橋」（米、デヴィット・リーン）「鍵」（米、キャロル・リード）

学園の木々の緑も落ちきって、今年もすぎようとしている。過去を反省し、将来に希望をかけるのは、だれでも一様にやることであるが、年の瀬イコールあわただしく、新年イコール明るい希望とわり切って考えるのは、日本イコール大和魂、殺人イコール帝国主義支配と考えるのと同じくらいに危険である。反省したり、希望したりするのは